

令和6年度(2024年度)事業報告書

2023年10月1日から2024年9月30日まで

特定非営利活動法人 アジア失明予防の会

今年度の医療技術指導は、ベトナムでハノイ医科大学でのアイセンターの設立予定を期待していたが、汚職撲滅を目指す政府の方針のため、資金がなかなか集まらずまだ実現できていない状況である。ハノイ医科大学付属病院、ドントーアイセンターなどで網膜硝子体手術を行っている。各地のプロジェクトでAPBAチームの研修医師や地方の研修医師を中心に行った。医療協力支援はMOUを締結しているハノイ医科大学より、小児科及び眼科から一人ずつベトナム人医師が京都府立医科大学で研修を行い、多大の成果を上げている。研修は双方に利点があることから今後とも続けていきたい。

これまで国立眼科病院が機能不全であったが、私の友人でありAPBAのプロジェクトで活動したことのある角膜部出身のDong副院長が院長に消化悪化正常化の方向に向かっている。2年間という長い年月であったが、その間にハノイ周辺(ハノイ市街を含む)には7か所のプライベート病院が開業し、盛況となっている。またベトナム国立眼科病院は復活したとは言っても、不正問題など再発しないよう徐行運転中であり、患者さんと混み合い、各医師が手術枠を確保できないほど混雑しており、国立眼科病院の医師らは多くのプライベート眼科病院の施設に紹介することで手術を行っている。またそうした病院から網膜硝子体手術の指導に来てもらいたいとの要請がある。フィリピンでは竹中前京都府立医科大学学長がMOUを結んできたセントローマス大学と医療交流ができないか模索中である。一方タイでは木下医師を中心にチュラローン大学と眼科交流が深まり、京都府立医科大学学長からも称賛を得て、チュラローン大学と京都府立医科大学間で交流が盛んになっている。

治療支援事業は、2023年は日越外交樹立50周年の記念すべき年であり、ほぼ毎月のようにベトナムに渡航し、各地方において事前の準備や医療保健局や人民委員会と交渉し、無償の白内障手術『Save The Vision』プロジェクトなどがスムーズに実施できるように根回しをしてきた。またフエ眼科病院においては、ヒカリカナタ基金と協力して、20歳以下の子供たちの治療を80名以上行い、大変好評を博した。フエ眼科病院は以前欧米の大きなNGOの支援で医療機器などを揃え、子供を中心とした治療のプロジェクトを数年にわたり行っており、麻酔科医師や形成外科医師も腕が良いため、フエ近郊だけでなく、200キロ以上離れた地方からも患者さんを受け入れる中で、今回の治療支援は、非常に素晴らしかったとのことで、できることなら来年度も延長して行ってほしいとの要望があった。

ところで、現在APBA Vietnam Teamには一つ問題があり、VietnamのAPBAのメンバーが各病院に分散したために、『Save The Vision』を行うときに、医師がそろわないことがありました。そうした時にDuc医師が勤めるプライベート病院から研修を医師を紹介され、参加させた。この件つ州におけるルール(研修医師の最初の仕事は、医療物資を運んだり、点眼をしたり、患者さんお番号と名前を確認したり、患者さんを手術室に誘導したり、手術が終わると患者さんの家族の下に誘導したりという下積み的な仕事から始めることになっている。Duc医師やDucGa医師、Quang医師らもすべてこれらの研修期間はそうしたことを経験しながら、手術の助手につけるように、サージョンとして活躍している)を全く無視して、前のDak Lak省のプロジェクトで色んなAPBAの医師に相談して、QN省でのプロジェクトには参加させないことを決めていたが、勝手に車で乗り付け、勝手にAPBAの手術ユニフォームを着て、手術室に紛れ込み、モンカイ省のプロジェクトで、CDCセンターからCKⅡのライセンスを持った医師のみ執刀許可が得られており、私、Chinh医師、Van医師が登録をしていた。許可を受けていない医師が登録をしていた。Van医師は参加してまだ日が浅く、その研修医師が助手についたのを知らずに休憩行った時に、その医師が執刀し、合併症を起こしてしまった。すぐに交替要請をするというAPBAのルールで、隣で執刀していたChinh医師がずっと執刀を中止する指示したのを無視して、Chinh医師がヘルプに行った時にはすでに角膜は真っ白になって、修復ができないような状態であった。ステロイド点滴や局部注射をw行ったが回復せず、両眼(手術)希望だったので、Chinh医師が執刀して、その場は終わったが、まだかすかに見えていた方の目が全く見えなくなり大きな問題事例となった。この問題により、2024年よりQN省からAPBAは締め出され、これまで友好的であった医療保健局の引退していたため、ライセンス年間3か所プロジェクトを行なう予定であったが、PACCOMライセンスの書き換え手続きに半年間を要した。テレコム病院副院長のDuc医師は忙しい中、この問題を聞いてから、自ら1日でも2日でも参加してくれるようになった。また医療機器が故障したときなども、テレコム病院の白内障手術機器を持ってくるなど、自らの病院における医師(白内障手術はOKⅠレベル)を参加させたりと、これまでの恩返しっということで、積極的に支援を行ってくれている。

物資支援事業では、在越日本国大使館のご協力のお陰で、日本政府の草の根支援無償(SGA)が期待されており、今年の5月より山田大使が引退し、伊藤大使となり、早速会食をして支援をお願いしたが、ODAの予算が減らされているので、どこまで支援ができるかわからないが、良い条件があれば、是非とも紹介していただきたいとのことであった。昨年度にファイバーテックより購入していたFL301や23G内視鏡プロト部などを寄贈したフエ眼科病院では網膜硝子体手術が充実した環境下でできるようになっていた。保健省の監視が厳しく、期限切れ恐れのある眼内レンズを使うことができません、今年はタイにて洪水が発生し、HOYA工場もその影響を受けたため、フル生産しているが、眼内レンズの需要度が高く今年はAPBAに対してHOYAの支援が得られないことになり、度数の足りない眼内レンズを100枚程度購入した。必要物資なので購入はやむを得ず、また地方にいる人にとってこうした手術の機会は1回しかないで、品質の良いレンズを選択した。手術用新商品(OM-6)となり値段も140万円以上s、この製品は世界でも引き合いが強くなり、また発注しても半導体不足のため、いつ納入できるかわからないと日本本社から回答があったため保留していた。その他の医療資機材についても円安や物価高の影響などで予算を大きくオーバーするため、学会中に顕微鏡のTAKAGIと交渉して1台100万円で2台購入した。1台はAPBAのプロジェクト用として、あと1台はバックカン省に寄贈した。またファイバーテック社の中古の新しい機器を、1台100万円で譲りうけることができた。

宣伝広告及び資金集めについては、2022年の11月30日に第64回Ramon Magsaysay賞(アジアのノーベル賞)を受賞することがマスコミに発表されて以来、受賞式後にはNHKバンコク支局が服部医師のインタビューを行い、即日総合テレビで流された。2018年に日越45周年で制作され2019年1月12日に放送された服部医師の『ベトナムのヒカリ』がNHKスペシャルで再放送された大きな反響があった。服部医師は副賞の4万ドルをすべてAPBAに寄贈した。そのおかげでアジア失明予防の会の知名度も上がり、ホームページビューも増加した。ロクシタンジャボンの担当者より、今年度より再びアジア失明予防の会への支援をしてもらえるようにフランスの本社に掛け合っていた。ただ、今年の1月1日に能登半島で地震が起こり、被災地に寄付が行われているため、寄付金額が半減している。ホームページの充実・レター・企業訪問・講演会やFBにより資金が集まっているか、十分とは言えない。是非とも理事の方には1年で1社でよいので協賛会委の拡大に尽力いただきたい。

2024年度事業報告書

2023年10月1日から2024年9月30日まで
特定非営利活動法人 アジア失明予防の会2 事業の実施に関する事項
(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	予算書 (千円)	支出見込み額 (千円)
医療技術指導①	眼科医療技術の教育・指導・普及や医療技術スタッフの派遣	年度内18回 48日 2023年10月～ 2024年9月	◎ベトナム ハノイ市（ハノイ医科大学付属病院、フエ眼科病院、ハイフォン眼科病院等） ◎ベトナム-ビンフック省、クアンニン省（モンカイ）、ニントアン省、タインホア省、ダックラック省、ビンフック省における地方医療センター等 ◎フエ眼科病院、ハイフォン眼科病院	10名	ベトナムの看護師など医療スタッフ	7,864	6,664
医療技術指導②	アジア諸国と日本の眼科医療従事者の技術・情報交流の促進	年度内1回	京都府立医科大学	2名	ハノイ医科大学医師2名	300	373
治療支援①	貧困により目の治療ができない人々への治療の斡旋・支援や眼科検診などの啓発活動	年度内18回 58日 1288名	◎ベトナム ハノイ市・フエ市・ハイフォン市 ビンフック省、クアンニン省、ダックラック省、タインホア省、バクカン省、フエ省、ニントアン省、 ◎フィリピン マニラ	15名	ベトナム・フィリピンの貧困層の人々	11,039	12,344
治療支援②	アジア諸国の眼科患者の日本での治療の斡旋、支援	年度内0回		0		0	0
物資援助	眼科医療資機材などの提供	年度内4回	ベトナム		地方医療センター、フエ眼科病院	9,200	15,285
広報活動	ホームページ・DVD/レター・企業訪問・講演会やFBによるPR活動・チャリティーパーティーなど	随時公開	日本国内	4名	広く一般に	3,000	3,000